

2012年05月09日

2012年3月期 決算発表 豊田社長あいさつ

2012年3月期は、東日本大震災やタイの洪水による減産、超円高等、経営環境が非常に厳しい年でありましたが、全従業員の努力に加え、仕入先や販売店の皆様方が一丸となり、生産・販売の回復に取り組んでいただきました結果、3,556億円の営業利益を確保することができました。

私はグローバルビジョンの中で、「トヨタが持続的に成長する」ために、「どんなに厳しい環境でも、しっかりと利益を上げられる体質」に向けた「強い収益基盤」の確立を目指す、と申しあげました。

当期の営業利益は、利益の絶対額としては、決して大きいとは言えないレベルですが、昨年は多くの自然災害があり、かつドルが80円をきる超円高の中で、以前の体質のままであれば、赤字になってもおかしくなかったのではないかと思います。

それほど厳しい環境の中、このように、なんとか利益を確保できましたのは、ここまでトヨタの体質強化に向けて、ともにご尽力頂いた販売店、仕入先の皆様、そして従業員の努力の賜物であり、敬意を表するとともに、心から感謝したいというのが率直な気持ちであります。

そして、トヨタ車、レクサス車に対し、変わらぬご愛顧をいただきましたお客様には、あらためて、深く感謝申し上げたいと思います。

期末配当につきましては、1株あたり30円とし、中間配当とあわせ、年間50円を本年の株主総会でご提案申し上げたいと存じます。

株主の皆様への最も重要な還元である配当につきましては、今後も株主の皆様のご期待にお応えしていけるよう、そして、「トヨタの株を持ってよかった」と思っただけ、長期に保有していただけるよう、努力してまいります。

2013年3月期の見通しにつきましては、私から一言申し上げたい点は、全社をあげて取り組んできた収益改善活動の着実な進捗に加え、いいクルマが台数・収益に結びつき、さらなるいいクルマへの投資につながるというサイクルが回りだしたことに確かな手応えを感じている、ということです。

そして今年、「商品」が、大きく変わる年になります。

トヨタブランド、レクサスブランドともに、多くの車種がモデルチェンジの時期を迎えるなか、先進国の成熟市場においても、これから伸びていく新興国市場においても、「何としてもこのクルマに乗りたい」とお客様に思っただけ、魅力的な商品を次々と投入していきます。

これから出てくるモデルは、デザイン面でも収益面でも「もっといいクルマ」に向けて、着実に進化させてまいります。

私は、喜劇王チャップリンが、「あなたの最高傑作は何か？」と聞かれた時にはいつも、「NEXT ONE」と答えたという、常によりよいものを作ろうとする姿勢に、我々でいう「改善」の精神と相通ずるものを感じております。ぜひとも、トヨタ、レクサスの「NEXT ONE」に、ご期待頂きたいと思っております。

ここ数年、本当に厳しいことが続きました。そのような時にもずっと支え続けて頂いたステークホルダーの皆様へ報いるために、今年こそは、皆の努力を、何としても結果として皆様にお示ししたいと思っております。

今後も、グローバルトヨタ32万人と、心をあわせて取り組んでまいりますので、引き続き、皆さま方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

以上